

平成30年度第5回北九州市子ども・子育て会議【会議要旨】

1 開催日時

平成31年3月19日（火） 18:30～20:15

2 開催場所

AIMビル 3階 315会議室

3 出席委員数

※委員定数：15名

15名

4 議題

- (1) 子ども・子育て支援に関する市民アンケート結果について
 - ・子ども・子育て支援に関する市民アンケート結果（資料1）
- (2) 次期プランにおける「次世代育成行動計画」（案）について
 - ・「第4回 北九州市子ども・子育て会議」での主な意見・要望（資料2）
 - ・「元気発進！子どもプラン（第3次計画）2020～2024【次世代育成行動計画部分】全体概要（案）（資料3）
 - ・「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」施策別資料（案）（資料4）
 - ・「元気発進！子どもプラン（第3次計画）」策定に係る今後のスケジュール（資料5）
- (3) 教育・保育施設等における重大事故の再発防止のための検証部会の設置について
 - ・教育・保育施設等における重大事故再発防止検証部会の設置について（資料6）

5 会議経過

(1) 子ども・子育て支援に関する市民アンケート結果について

【主な意見等】

- ・ 結婚のことや子育ての不安、医療・教育・経済的なこと、時間の余裕がないなど、生活の変化に対する不安が大きいことを改めて認識した。
- ・ 「子育てに関する悩みや不安を感じるか」という数字よりも、「子育てをされていて楽しいと感じるか」という数字の方が多くなっていることに安心した。
「不安」というものは、子育てしている以上、必ず感じるもので、どんなに子育てが順調でも、子どものことが愛おしいから不安だし、どうしたらいいのだろうと悩む。
この数字は実態をよく表していると思う。不安で悩んで、親になっていくのだと思う。「楽しい」と感じている割合がこんなに高いというのは、本当にうれしいこと。
- ・ 「力を入れて欲しい子育て支援策」（複数回答）のうち、「入所しやすく、多様なニーズにこたえられる放課後児童クラブ」を選んだ割合が、22.3%となっている。
次期プランにおいても、放課後児童クラブの「魅力の維持・向上」に取り組んでいくこととなるが、各クラブの現場の職員、指導員が、保護者の希望通り対応できるか、負担に感じていることも多い。このことも、ぜひご理解いただきたい。
- ・ 前回の調査結果と比較できるものは、どういふ変化が表れているのか、できる限り分

析を行ってもらいたい。

(2) 次期プランにおける「次世代育成行動計画」(案)について

【主な意見等】

<基本理念について>

- ・ 基本理念を、「文字ではなくて視覚化したほうがよい」という前回会議の意見を反映した案(笑顔イメージ化)になって、良くなったと思う。
- ・ 基本理念に「笑顔」が盛り込まれたことで、「実際にこういう施策に取り組むと、みんなが笑顔になれるかな?」と考えることができる。
- ・ 「笑顔」というキーワードが理念に盛り込まれたことは、非常に良かったと思う。

<視点について>

- ・ 4つの視点のくくり方が分かりやすくなった。
- ・ 本市は「誰1人取り残さない」という理念をもつSDGsの達成に向け、取り組みを進めているが、まさにこの子どもプランの中で、SDGsの理念がいろいろな形で反映されているということが読み取れるような、そういう視点になったように思う。

<副題について>

- ・ 「子育て日本一を実感できるまちの実現を目指して」については、「既に本市は日本一を実現している」という意味合いも込めて、例えば「維持・向上を目指して」「さらなる向上に向けて」といった表現に変更してはどうか。

<全体像について>

- ・ 子どもの発達段階で、それぞれの年齢・世代にとって必要な施策が分かりやすく示されている。
- ・ 全ての年齢・世代を通した施策についても、見やすい形で表現できている。非常に柔らかい色合いで、しかも「妊娠～出産期」「乳児～幼児期」等と時系列で、絵で表現できしており、素晴らしい出来になっていると思う。
- ・ 本当に見やすい資料となり、「切れ目ない」という感じで見ることができ、良いものができたと感じる。

<イラストについて>

- ・ 虹の色の順番や数が正確でないことは気になるが、虹のようなもの(屋根・ドーム等)と捉えれば良いし、プランの目標のカラーと合わせているのなら、このままでも良いかもしれない。
- ・ 虹のような挿絵は、見る人が想像したら良いので、このままでも良いと思う。

- ・ プランに人と人のつながりを表す文言があると、より優しいイメージになると思う。例えば、目標4に「人と人がつながって」といった言葉を加えてみてはどうか。
- ・ 成果指標については、「満足度」など、利用者や市民のことを考えており、非常に良いと思うが、一方で、本市の強い思いを理解してもらえるような、市民を引っ張っていくような、そういった「攻め」の指標があっても良い。
- ・ 子ども・子育て会議がプランを作っていく主体性みたいなところを示す、そういった成果指標があってもいいのではないかと。日本一が実感できるような、こういうことをやっているということを、示せるような成果指標。これがPR、情報発信にもつながっていくことになる。
- ・ 施策（1）の母子保健の充実について、平成29年4月に市町村に努力義務として定められた「子育て世代包括支援センター」の記述がない。記載した方が良いのではないかと。
- ・ 施策（3）「乳児・幼児期の教育や保育の充実」については、「現状・課題及び方向性」に、幼稚園教育要領や保育所保育指針が紹介され、「育みたい資質・能力」（3つの柱）や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）についても詳細に記載してもらい、感謝している。
教育・保育の現場で実践していることや望んでいることが盛り込まれた形となっており、評価したい。
なお、乳児（0歳児）の3つの視点「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」についても、ぜひ記載してもらえればと思う。
- ・ 施策（3）の柱②「幼稚園、保育所等における多様なニーズに対応した保育サービスの充実」については、今回「保育サービス」が「保育」に変更されており、評価したい。
- ・ 施策（5）「地域における子どもの居場所づくり」の＜方向性＞の記載の中に、『「居場所で過ごした子ども達が、その後、先輩として、頼れる大人として、その居場所を支える存在となっていく」という文章がある。
「子どもの自立につながるような居場所であってほしい」という思いを盛り込むため、この文章に「自発的に」という言葉を加えてもらいたい。
- ・ 施策（6）「こころの教育、体験・学習機会の充実」の成果指標に、「人の役に立つ人間になりたいと思うと回答した児童生徒の割合」というのがあるが、人の役に立つことに「喜び」を感じられるような、そういった子どもを育てていくことが大切だと感じる。
自尊感情、自己肯定感の前段階として、自己有用感というものがある。これは、「ありがとう」と声を掛けてもらうとか、役に立った喜びがあって、それが自尊感情、自己肯定感につながっていくという。体験活動は、自己有用感を先に育て、そこを満たしたうえで自己肯定につなげていくといったロジックもあるので、取り組むにあたっては、いろいろ研究していただければと思う。

- ・ 施策（６）の柱③「児童文化科学館の移転新設」では、成果指標が「科学や技術への興味・関心を持つ児童生徒の割合」となっているが、科学館の移転新設の影響ではない別のことが影響しているかもしれない。
 もう少し普通に、人数を指標にしても良いし、あえて「評価は必要ない」といったことでも良いのでは。
- ・ 施策（１０）「障害のある子どもや発達の気になる子どもへの支援」については、より施策を充実する意味で、障害児通所施設（特に、放課後デイサービス事業所）の質の向上について、記載した方が良い。
 また、事業「総合療育センターの機能の強化」については、「地域支援室」のみ言及されているが、他にも取り組みがあるので、追加してもらいたい。
- ・ 施策（１１）に掲載されている事業に、「ひとり親家庭施策の周知」というのがある。
 ひとり親向けのガイドブックで、携帯でき、いろいろな事業が掲載されている。非常に良いものなので、地域で活動されている方にも配布いただけるとありがたい。
- ・ 目標４の表現が「子育ての喜び・楽しさを得られるまちをつくる」なのに、それを構成する施策（１２）は、「子育ての悩みや不安への対応」となっている。
 この施策名については、「喜び・楽しさ」につながるポジティブな表現を検討してもらいたい。
- ・ 「オール北九州」で取り組む、という言葉を使用することも多くなっているが、この「オール北九州」を言うとき、本市の強みとなるのは、高齢者だと思う。子ども・子育て支援は、まさしく高齢者が活躍できる場ではないかという思いがある。今後、この高齢者の方にどのように関わってもらい、協力を得るのか、プランにしっかりと謳ってもらいたい。
 シニア世代の関わりについては、施策（１２）の柱②「地域活動を支える人材の活用・育成」などに盛り込まれているようだが、どこに掲載されているか、もう少し目立つようにしても良いかもしれない。
- ・ 施策（１４）の柱①「事業者等との共同による仕事と生活の調和の推進」では、「仕事と生活」という視点からワーク・ライフ・バランスを捉えてはいるが、「生活 - ライフ」に含まれる地域活動や趣味の時間を、子育てしている方たちへの支援・活動に使っていくのだ、ということまで含まれているように感じられ、非常に良い表現だと思う。
- ・ 施策（１５）の「子どもの安全を守る環境整備」の柱②は、「安全・安心を実感できるまちづくりの推進」という表現になっているが、防犯や交通安全はイメージできるが、防災までは思いつかない。別の表現に変えてはどうか。
 災害への備えや、災害時の対応については、市の支援の充実だけでなく、保護者への意識づけも重要であると思う。
- ・ 妊娠者の中で、精神科の受診が必要な方も多くなってきているように感じている。
 また、児童虐待についても、家庭内で精神的な問題を抱えていることも多いと感じて

いる。

今後、こうした取り組みを行うにあたっては、ぜひ、精神科医の協力を得ていくということについて、検討いただければと思う。

- ・ 自分の立ち位置がどこにあり、子どもたちのために何ができるのかが分かる「ガイド」のようなものがあると良い。
一人の子どもの成長、一つの家庭の成長・変化に、各専門職がどう関わるのか、そういった議論があっても良いと思う。

<パブリックコメントについて>

- ・ より良いプランにするためにも、パブリックコメントについては、丁寧に対応してもらいたい。

<今後のとりまとめ方法等について>

本日の意見と会議後の意見書も踏まえて、今後は、とりまとめという段階に入るため、会長と副会長、事務局で協議し、ブラッシュアップの上、まとめていきたい。

⇒委員異議なし

(3) 教育・保育施設等における重大事故の再発防止のための検証部会の設置について

- ・ 死亡事故の場合、警察の案件になってしまうと、全ての情報が得られるわけではない。部会において、こうした事案にどのように対応していくのか、考えておいた方が良い。
- ・ 受け皿がないと、何も検討できないということにもなるので、この部会をうまく使い、再発防止に力点を置きながら、運営していくことが重要である。
- ・ 自分の市の事だけ考えるのではなく、他都市で起きた事案も検証すると、非常に良い部会になるのではないかと思う。